

収入向上・女性自立

新年度の COWHED との協力の形 — 支援打ち切り提案への回答が届きました —

国内需要の拡大、行政による評価・支援の動きなどから、ほぼ自立したと皆様にお伝えしたチボリの女性組合 COWHED。3月理事会に提案の予算原案は、2002年以來継続してきた COWHED 支援を含まないものになりました。今年度は「製品購入」を通じての協力にとどめます。

新年度を迎えて、改めてこの「支援打ち切り」方針を現地に伝えました。このところ、COWHED との通信手段はフェイスブックに限られているため、詳細説明は元 COWHED マネージャー・ジェマさんのメールアドレス経由でいたしました。ほどなく、現マネージャー・ジェナリンさんから、フェイスブック経由で返信があり、現況報告と写真報告が届きました。以下ご紹介します。

COWHED ジェナリン・マネージャーの報告・支援要請（要旨）

3月12日から10日間、マニラで開催のフィリピン女性委員会主催企業活動研修会に参加した。大変勉強になった。

4月9日には組合員総会を開催した。「試練を乗り越えて、大きな夢に向かって進もう」をテーマに今年の活動を話し合った。

ここ2、3日は、監督官庁への諸報告作成で忙しくしている。昨年は織りを含めて国内での売り上げ実績が悪化し、税金や値上がりした会計監査経費支払いに苦慮している。収益減で、組合員への配当金やスタッフ給与減額せざるを得ない。HANDSの奨学生ジナフェもおかげで4月7日に卒業したが、収支が悪化し、組合員への配当金、スタッフ給与減額の中、今しばらくカレッジ奨学金やスタッフ手当の継続をお願いしたい。皆様よろしくお伝えください。

* 元マネージャー・ジェマさんの助言もあり、総会前の持ち回り理事会で、COWHED に対する最小限の予算復活を提案する予定です（事務局・山崎）



COWHED 店舗で、危機乗り越え策を話し合う役員及び主だった組合員

（左端・ネニータ組合長）

アムグオでのナバルタビ振興事業・写真報告

前号でお伝えのように、1) ナバルタビ保存継承を通じての収入向上事業は、私たちが10年前に支援した「織の家」補修をナバルタビプロダクション/NTP 共同代表のスヌーリアが、2) 織の研修は、住民の組織化経験があるボニファシオを責任者とするという2本立てへの変更を、助成機関 WE21 ジャパンみどりから承認いただきました。事業期間も5か月延長し、8月末終了で了承されました。以下は、ボニファシオ撮影の研修風景写真です。



←
左端がアルフレッド。唯一の男性研修生。右は講師のバイさん。熟練織手の一人です。

→
バイさんの指導を受ける研修生。



研修生は全部で6名、うち1名は男性です。

チボリの伝統織ティナラクでは、男性は砧で叩く、タカラ貝で擦る等の仕上げ工程のみに関わるとお伝えしてきましたが、今回はアルフレッドも織りの全行程習得を目指し参加しています。

本事業では、習得が難しい織りだけではなく、ナバルタビ織を使った小物縫製も研修に含めました。アドバイザー役をお願いしている元 COWHED マネージャー・ジェマさんによると、まだミシンは購入していないそうですが、いずれ、ブックカバーや小銭入れなどから研修を開始したいということです。

織りや縫製小物の販路を聞くと、熟練織手のナバルタビ織については、ダバオやジェネラルサントスだけでなく、マニラからもバイヤーが来るとか。

当団体としては小物の販路拡大面で協力できればと思います。



ティナラクと同様、アバカ繊維は、キナルムの葉で黒く染めます。